

第2期鋸南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況(令和4年度分)

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標1 稼ぐ地域をつくり、雇用を創出する	総務企画課 企画財政室	都市交流施設周辺整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年6月に整備工事に着手。令和5年9月竣工予定 令和4年5月にテナント事業者を選定 令和5年3月に指定管理者を指定 PR TIMESを使用したプレスリリース配信 	「まちのオフィス」(コワーキングスペース)の利用促進に向けた環境整備・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月供用開始に向けたプロモーション、オープニングイベントの実施 広く周知を図るため、PR TIMESを令和5年度においても活用
	地域振興課 まちづくり推進室	道の駅保田小学校でのイベント開催 ・開校記念祭	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体で来場者数約80万人、売上高約7.3億円(税込) 利用者数(レジ通過者数)269,734人(前年比:118.5%) 出荷組合売上高 約1.1億円(前年比:117.06%) 出荷組合会員数221人(前年比:99.5%) 	開校から7年以上経過したこともあり、徐々に施設の設備・備品が交換時期を迎え、不具合が生じてきている部分が見受けられるため、計画的な修繕を実施する必要がある。	新型コロナウイルス感染症の5類移行や拡張施設のオープンを秋を迎えるなかで、近年中止していたイベントなどを再開していくことでさらなる誘客を狙う。
	地域振興課 農林水産振興室	佐久間地区活性化推進協議会で会議を開催し、地域活性化について話し合いを行った			話し合いを行っているが、課題も多く具体的な内容にまで議論が深まらない。
基本目標2 本町への新しい人の流れをつくる	総務企画課 企画財政室	<ul style="list-style-type: none"> 通勤・通学支援助成金 企業版ふるさと納税の推進 民間複業人材の活用(公共交通、特産品企画、コワーキングスペース活用、ホームページ、観光マーケティング) 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤は6名、通学は4名を支援。 企業版ふるさと納税として6件1,600千円の寄附があり、地方創生関連事業の財源とした。 株式会社Another worksとの協働による実証実験として民間複業人材をアドバイザーとして5名採用。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、公共交通機関の利用・蘇我以北を対象としているが、幅広い支援を求める声が寄せられている。 企業版ふるさと納税は、前年度と比べると件数・金額ともに増加しているが、新たな財源確保に向けて更なる呼びかけが必要である。 業務が多様化・複雑化しているなかで職員のみでの問題解決は難しいと思われる場面が多く鋸南町の空き家の需要に対して、供給できる空き家の数が少ない。また、空き家バンクへの掲載に意欲的な所有者が少ない。 農地付き空き家の知名度がまだ低い 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も支援を継続。 企業の斡旋を行うマッチングサービスを複数導入することで、企業との接点を増加させる。 令和5年度からデジタルトランスフォーメーション推進担当の地域活性化起業人を設置する。 民間複業人材の実証実験は、令和5年7月末までとなるが、その後も多方面での民間複業人材活用の検討を進めていく。
	地域振興課 まちづくり推進室	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産税納税通知書に空き家バンク制度周知のチラシを同封 農地付き空き家の取り扱いをR3.1月から開始 	<ul style="list-style-type: none"> 新規登録物件:8件(うち農地付き2件) 成約件数 :7件(うち農地付き2件) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規登録物件:8件(うち農地付き2件) 成約件数 :7件(うち農地付き2件) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、空き家バンク制度の利用促進を行い、新規空き家の開拓(農地付き含む)や制度周知を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ①町職員による相談対応 ②ふるさと回帰支援センターとの連携 ③ふるさと回帰支援センター主催の移住・交流フェアへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談件数:30件 【内訳】保田小:2件、SNS:1件、ふるさと回帰支援センター紹介:1件、移住交流フェア26件 ②鋸南町に関する資料の設置、センターを訪れた移住検討者の受け入れ(R4.4~会員加入) ②ふるさと回帰支援センター主催の移住・交流フェアに参加(千葉県ブースにて出展)。 全体来場者数:3,391人 相談者数:18組26名 	<ul style="list-style-type: none"> 職員1名で移住定住業務を担っていることもあり、定期的な移住相談の管理運営や情報発信量が不足している。 移住定住に係るパンフレットなどが無いため、移住検討者が町での生活のイメージを抱きづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材の登用も含めた人員の補充も検討し、受け入れ側の体制の構築を図る。 移住定住に係るパンフレットの制作を実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> ①町観光PR動画制作・配信 ②花まつりの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①観光PR動画を夏編・冬編・総集編本編・総集編短編の計4本制作。 →R4.9月公開の夏編については、R5.3月末時点で約3.7万回の視聴を獲得。 ②花まつり約6.4万人の来訪を獲得。(水仙27,120人、桜37,250人) →前年約5.8万人(約11.9%増加) 	<ul style="list-style-type: none"> 動画視聴後に視聴者が興味・関心を深めるページが不足しているため、動画視聴による認知の獲得はできるが、実際の誘客に繋がりにくい部分が残る。 新型コロナウイルス感染症が収束に向かいつつあるなかで、イベントが再開される流れになってきているが、人手不足なども重なり、実施が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報の充実を図ると同時に、情報の集約をし、誘客に繋がるページの作成を行う。 各イベントの実行委員会の委員とも協議をしながら、イベントの方針を決め、実施できるものについては、順次実施をしていく。
建設水道課 建設環境室	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅取得奨励金事業 ○住宅リフォーム補助事業 ○空家対策協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅取得奨励金事業 全17件 7,600千円を補助 ○住宅リフォーム補助事業 全18件 2,585千円を補助 ○空家等対策計画の更新及び対策協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅取得奨励金事業 全17件中、転入者への補助は3件のみだったため、転入者の更なる制度活用が望まれる。 コロナ禍により住宅設備の納期の遅れから、工期延長などの影響が出ている。 ○住宅リフォーム補助事業 全18件の活用があり、予定件数は達成したが、更なる制度活用が望まれる。 ○空家件数312件、特定家屋件数58件が確認されており、所有者による是正が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅取得奨励金事業 ○住宅リフォーム補助事業 移住定住のための基盤整備として、制度の拡充を検討しつつ継続して事業を行っていく。町外者の制度利用を促進するため、積極的な情報発信を行っていく。 ○令和4年度に更新した空家等対策計画に沿って事業を進める。 	

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	税務住民課 住民保険室	鋸南町結婚新生活支援事業	実績 0件	結婚に対して経済的に支援を行うことで、早期化・出産へと繋げたい。	引き続きホームページ・SNS・広報誌への掲載や県運用のチーパススマイルを活用し、周知について連携を図る。
	地域振興課 農林水産振興室	出会い応援サポーターの定例会を8回、臨時会議を1回開催をし、出会い応援イベント等について話し合いを行った。	出会い応援イベントを2回開催し、男性12名、女性9名の参加があった。	若者の結婚感が大きく変貌し、結婚しないという選択肢が存在する。 経済格差などの要因もあり、結婚したくても養えないなどの問題も存在する。	若者が参加しやすい出会い応援イベントを開催し、出会いの場を提供する。
	保健福祉課 健康推進室	出産・子育て応援交付金事業により、出産前後にアンケートを実施、また、乳児家庭全戸訪問事業により出産後4カ月までの全家庭を訪問し、各家庭の子育て支援のニーズ把握に努めた。また、既存の子育て広場等の事業に出向き、身近な存在となるよう努めた。	新たな取組により、妊娠届出から出生後まで、継続的に顔を合わせることで、信頼関係を構築し、個別に支援が必要な様々な相談を受け、対応し、子育て世代に関わる伴走型の支援に繋がっている。	個々の子育て世帯が必要な支援について、徐々に形にしていけることが今後の課題となる。	個々の必要とする支援に対して、町全体としてどの範囲まで対応していけるかを検討し、整理する必要がある。
	教育課 教育総務室	子育て世帯の経済的負担を軽減するため、町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校に通っている児童生徒の給食費を助成による無償化を行った。対象者は、保護者と児童生徒が町内在住している者に限る。 (給食費月額助成額) 幼稚園児、小学生 4,200円、中学生4,800円	給食費無償化実績 合計 377名 18,230,828円 ・幼稚園児 43名 1,974,000円 ・小学生 180名 7,828,800円 ・中学生 106名 5,478,456円 ・保育園児 47名 2,916,992円 ・特別支援 1名 32,580円	この取組みは、実践している事例が少ないことから、移住・定住を検討している方に積極的に情報発信していきたい。	継続していく。

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標4 ひとが集う、魅力あるまちづくりを推進する	総務企画課 総務管理室	町民の自主的な地域の特性に応じた防災活動の推進のため、自主防災組織等が購入する資機材、備蓄品の購入に対し補助。 【補助内容】 設立時60万円、次年度以降は事業費の2/3を20万円を限度に補助。	【令和4年度実績】 ・新規設立団体:0団体 ・拡充団体:0団体 【令和4年度末現在実績】 カバー率:76.6%	順調に拡大しているが、新規団体が伸び悩み気味。 人口減少や地域の高齢化が進み、組織運営の将来不安は否めない。 各地域の防災意識に乖離があるのも事実、民度を同じレベルに向上させる必要がある。	地域全体の防災意識の向上に向け、防災訓練や防災講演会、講習会、研修会などの実施。 現在の補助制度の維持。 個々の自主防災組織の活動内容の充実と横のつながりの強化。
	総務企画課 企画財政室	・庁内外のDXに向けてDXアドバイザーを委嘱、業務改善に向けてデジタル化診断の実施。 ・新しい公共交通体系を構築するため、AIオンデマンド交通の実証運行に向けた検討。	・内閣府の地方創生人材支援制度の活用によりソフトバンク株式会社からデジタル専門人材の派遣を受入れ。DX推進計画を策定。 ・令和5年度においてAIオンデマンド交通の実証運行を実施するため、民間複業人材を活用して実施体制の検討等を行い、公共交通会議を	・町職員には、デジタル専門人材が存在しないため、デジタル化の推進が難しい。 ・実証運行実施における財源の確保(総務省「過疎地域持続的発展支援交付金」の活用検討)。	・令和5年度は「地方創生人材支援制度」、「地域活性化起業人制度」を併用して株式会社フォーバルからデジタル専門人材の派遣を受入れ、地域のデジタル化を推進する。 ・令和5年10月から令和6年3月末までAIオンデマンド交通の実証運行を実施する。
	地域振興課 まちづくり推進室	佐久間ダム及び町内の景観整備のため、花木の植栽及び除草作業を実施。	河津桜などの桜の他には、アジサイやレンギョウを植栽。除草作業は年間通じて実施した。 ・水仙まつり入込(R4.12~R5.2):27,120人 ・桜まつり入込(R5.2~R5.4):37,250人	毎年草刈りを実施しなければならない箇所が増加しているが、職員、会計年度任用職員の人員数に変わりがなく、作業が遅れ気味になる。	福島県の「花見山公園」を目指し、来訪客の目を楽しませられるよう、既に植栽の完了している花木の維持管理にも努め、植栽も行っていく。
	建設水道課 建設環境室	ゴミ拾いのイベント事業	年2回の清掃活動を実施し、5月のゴミゼロ運動では8.6t、12月の一斉清掃では6tのゴミを収集した。 その他環境関連イベントの実施はなかったが、住民主体の環境美化団体の活動が行われており、収集・処分等の支援を行った。	環境関連のイベントは実施せず、周知のみとなった。	年2回の清掃活動は継続して行う。また、環境美化団体の清掃活動の支援に引き続き取り組んでいく。 環境関連のイベントの実施については、環境美化団体とも連携しつつ、検討していく。
	教育課 生涯学習室	中央公民館では、鋸南町の魅力をテーマにした様々な教室を開催した。 ① 頼朝すごろく作り体験 1回 ② 染物教室(藍染、桜染) 2回 ③ 浮世絵版画摺り体験 1回 海洋センターでは、小学校の低学年、高学年を対象とし夏休みに自然体験活動(海遊び、鋸山登山)を盛り込んだBG塾を延べ6回開催した。	町の魅力を学習することで、郷土への愛着を深めることができた。	参加者が固定化する傾向が見受けられる。幅広く参加してもらうため情報発信に工夫が必要。	この取り組みは継続していく。
	教育課 教育総務室	①小学校6年生は、「持続可能な鋸南町をめざして」をテーマに総合的な学習の時間に取組み、町の良い所や課題を話し合い、町の未来のために自分たちができることをまとめた。その後、教育の日にグループで検討した「鋸南町の魅力を伝えよう」、「おすすめ鋸南町マップを作ろう」、「鋸南町の自然を伝えよう」などを発表し、中学生もアドバイスを考え応えた。1回 ②中学校1年生は、フィールドワークでガイドボランティアから地域の歴史や文化を学んだ。源頼朝、醍醐新兵衛、菱川師宣等の町の偉人について知識を深めた。1回 ③小学5年生、中学2年生を対象に鋸山教室を開催し地域の魅力を再発見する機会を提供した。4回	鋸南町の課題やその解決策について、子どもたちが真剣に考え発表することで、郷土への愛着を深めることができた。 町の歴史を学び、町の素晴らしさを再認識する機会となった。	新たな教科の増など、小学校における地域学習の授業時間の確保が年々難しい状況である。	この取り組みは継続していく。

第2期鋸南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況(令和4年度分)

実績区分(現在2020年との比較) ■改善 ■変化なし ■悪化

基本目標	指標名	単位	現在 (2020年)	実績 (2021年)	実績 (2022年)	中間 (2023年)	最終 (2025年)
基本目標1 稼ぐ地域をつくり、雇用を創出する	事業所数	事業所	382	355	355	378	375
	農業法人の参入数	社	1	2	2	2	4
	観光入込客数	人	1,352,810	1,255,239	1,453,342	1,500,000	1,700,000
基本目標2 本町への新しい人の流れをつくる	年間の転出超過人数	人	116	70	44	85	75
	観光入込客数(再掲)	人	1,352,810	1,255,239	1,453,342	1,500,000	1,700,000
	空き家バンク登録件数	件	9	6	8	10	10
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	出生数	人	15	11	15	30	35
	婚姻件数	件	11	13	13	25	30
基本目標4 ひとが集う、魅力あるまちづくりを推進する	鋸南町を住みよいと思う住民の割合	%	51.8	41	48	55	60
	子どものふるさと教育の実施回数	回	3	10	16	6	10
	自主防災組織率	%	67.1	76.6	76.6	80	90

実績区分(現在2020年との比較)

■改善	5	7
■変化なし	0	1
■悪化	6	3